

第1～3回で寄せられた御意見等の反映状況について

No	御質問／御意見	反映状況
第1章「教育をめぐる状況と今後の方向性」関連		
1	特別支援は「暴力」の項目の前に位置を変え、「特別な支援が必要な児童生徒数の増加に伴い、教育インフラの充実が遅れている」と記載すべき。(名古屋委員)	【3 本県の現状・課題と今後の方向性】 順番を暴力等の前とし、「特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある中で、教育インフラの充実が遅れており」と記載。(企画室)
2	生涯学習の地域との関係をどのように位置づけるのか。(浅沼委員)	【3 現状と課題と今後の方向性】 現状と課題と柱立て項目を「学校教育」と「社会教育」に整理。(企画室)
3	幸福に関する記載が必要。(五十嵐委員)	【3 現状と課題と今後の方向性】 幸福に関する記述を記載。(企画室)
第2章「目標・取組の視点」関連		
4	「学校と家庭、地域との協働の推進」が重要ではないか。(佐々木良恵委員)	【1 目標】 県民ぐるみで教育を支える「学びと絆で夢と未来を拓く教育創造県いわて」を基本理念に設定。(企画室)
5	学校と地域の壁を突破できるものがほしい。(浅沼委員)	
6	目指す姿の「岩手の地で～生き生きと学び」の後に「夢を持ち」という言葉を挿入してはどうか。(和田委員)	【1 目標】 「学びと絆で夢と未来を拓く教育創造県いわて」を基本理念に設定し、学校教育の目指す姿に「夢を持ち」と記載。(企画室)
7	目指す姿に、震災の経験や教訓を盛り込んでいくべきではないか。(野田委員)	【2 取組の視点】 ・視点1「岩手だからできる教育、やるべき教育を推進」に、震災の経験を学びに変える視点を記載。(企画室)
8	誰を主体とした目指す姿かを整理すべき(山本委員)	柱立て項目を「学校教育」と「社会教育」とし、主体も「子ども」と「県民」に整理。(企画室)
第3章「具体的な施策の内容」		
9	数値目標を明確にしてほしい。(西館委員)	9つの柱立て項目毎に目標指標を設定。(企画室)
10	目指す姿は、現状、課題を踏まえて出てくるべきではないか。(田代委員)	柱立て項目毎の構成を、「1 現状と課題」、「2 目指す姿」の順に変更。(企画室)
(1) 岩手で、世界で活躍する人材の育成		
11	「ルーツ」という表現は工夫すべき。(八重樫委員)	現状・課題に「本県にゆかりがある」と記載。(企画室)。
12	主体的な進路選択と県内就職率の向上はキャリア教育としてまとめられないか。(八重樫委員)	目指す姿で「キャリア教育・職業教育の推進」に統合。(学調課)
13	県内就職率は目指す姿から外れるのではないか。(八重樫委員)	目指す姿から削除。(学調課)
14	「社会に開かれた」には、ライフキャリアの視点が強調されていることを踏まえるべき。(田代委員)	取組に「生涯を見通した生活設計とライフデザイン能力の育成」を記載(学調課)

(2) 一人ひとりの学力を伸ばす学びの充実		
15	教育課程は「編成」ではなく「推進」と記載すべき（名古屋委員）	取組に「推進」と記載。（学教課）
16	学ぶ意欲を高めるだけでなく、活用力を高める授業改善が必要。（田代委員）	目指す姿に「～授業改善が行われ～、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、表現力、判断力等や～が身に付いています。」と記載。
17	児童生徒には、幼児が入るべき。（名古屋委員）	目指す姿に「幼児児童生徒」と記載。（学教課）
18	「基礎的・基本的な学力が定着」というところは、知識・技能ではないか。	目指す姿を「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と記載。（学教課）
19	目指す姿に家庭の関わりも盛り込んだほうがよい。	目指す姿に「保護者が主体的に家庭学習に関わる」と記載。（学教課）
(3) 豊かな人間性と社会性を育む学びの充実		
20	人生が大切だという視点が必要ではないか。（深谷委員）	取組に「道徳教育」について記載。※道徳教育の中に「人生が大切（自他を大切にすること、豊かな心をもつこと等）」という視点も重ね合わせている。（学教課）
21	目指す姿に、「自然との共生」あるいは「自然から学ぶ」を盛り込んではどうか。（八重樫委員）	目指す姿に「自然から学ぶ体験活動等」と記載。（学教課）
22	生徒指導の観点も入るべき。（熊谷委員）	項目（6）一人ひとりがお互いを尊重し、楽しく学べる学校づくり」に統一して記載。（学調課）
23	ADHDの子どもたちの暴力への配慮が必要（五十嵐委員）	取組に「児童生徒一人ひとりへの適切な援助や支援を充実」と記載。（学調課）
(4) 健やかな体を育む学びの充実		
24	「健やかな体」ではなく「生き生きとした体」等が良いのではないか。（名古屋委員）	「健やかな体」のまま記載（中教審や指導要領の表現と合わせるため）。（保体課）
25	部活動を運動部に限定すべきでない。（五十嵐委員）	「部活動」に記載を整理。（保体課）
26	早寝早起き朝ごはんなど、子どもたちに今必要なのは睡眠と食事ではないか。（和田委員）	目指す姿に「望ましい生活習慣」を記載。（保体課）
27	学校保健活動、そして食育という部分ももう少し膨らませるべき。（五十嵐委員）	目指す姿に「健全な食生活」「健康と命の大切さ」を記載。（保体課）
(5) 共に学び、共に育つ特別支援教育の推進		
28	特別支援学校に入れないグレーゾーンにいる子どもたちをどのように位置づけるのか。（酒井委員）	取組に「通常の学級において特別な支援が必要な児童生徒に対する支援」を記載。（学教課）
29	「就職支援」を「就労支援」にすべき。（名古屋委員）	目指す姿に「就労」と記載。（学教課）
30	高等学校での特別支援を検討すべき。（佐々木良恵委員）	取組に「～高等学校の通常学級においても～通級による指導を推進」と記載。（学教課）
31	「特別支援教育のセンター的機能」は「特別支援学校のセンター的機能」ではないか。（名古屋委員）	取組に「特別支援学校は、地域における特別支援教育のセンターとしての役割を果たす」と記載。（学教課）

32	普通学級での支援の必要な子どもたちなどへの対応等の先生方の負担も課題に含めた方がいい。(五十嵐委員)	現状と課題に「試行錯誤を重ねながら」と記載。(学教課)
33	周りの理解というのも非常に大事ではないか。(五十嵐委員)	取組に「県民向けの公開講座等」と記載。(学教課)
34	目指す姿に「障がいのある児童生徒一人ひとりがその存在を認められ」という文言を加えるべき。(酒井委員)	目指す姿に「障がいのある児童生徒一人ひとりがその存在を認められ」と記載。(学教課)
35	共に学び、共に育つ教育、インクルーシブ教育の文言もあった方がいいのではないか。(酒井委員)	目指す姿に「共に学び、共に育つ教育の実現」と記載。(学教課)
(6) 一人ひとりがお互いを尊重し、楽しく学べる学校づくり		
36	不登校生徒の出現率については、別室登校等も積極的にカウントすべき。(酒井委員)	不登校児童生徒数については、文部科学省の定義に従い調査を実施。(学調課)
37	「関係機関との連携・協力を促進」あるいは「強化」といった表現を明記すべき。(八重樫委員)	目指す姿に「関係機関との連携・協力の促進」と記載。(学調課)
38	目指す姿に「不登校につながりやすいいじめや学校不適応」という表現にすべき。(酒井委員)	不登校とのつながりだけでなく、広くいじめや不登校などの学校不適応を対象としてとしてとらえることとして記載。(学調)
39	「多岐にわたる不登校の原因等の実態把握を行い、適切な支援や指導につなげるための心のサポートや相談体制の充実」という表現にすべき(酒井委員)	目指す姿に「多岐にわたる不登校の原因等の実態把握を行い、適切な支援や指導につなげるための心のサポートや相談体制の充実」と記載。(学調課)
40	取組の方向性に不登校の項目を起こすべき(熊谷委員)	「教員による居場所づくりなどによる、不登校対策の推進」の項目を記載。(学調課)
(7) 安心して学ぶことができる質の高い教育の場づくり		
41	地域格差にどう対応していくかの記述が必要。(五十嵐委員)	目指す姿に「教育の質の保証と学ぶ機会の保障」「家庭の経済状況件などの生まれ育った環境に左右されない教育機会が確保」と記載(学調課・企画室)
42	地域格差が高校再編に反映されていない。教員の適正な配置が必要。「就労支援科」があっても良い。(佐々木良恵委員)	
43	不登校児童生徒への教育機会の提供という項目も必要。(八重樫委員)	取組に「不登校児童生徒への教育機会を提供保」と記載。(学調課)
44	「優秀な教員」は「教育現場で必要とされる教員」といった表現にすべき。(和田委員)	目指す姿に「高い志を持つ有為な人材」と記載。(教職課)
45	私立学校の特色ある教育活動の推進についての位置づけを整理すべき。(五十嵐委員)	「(7) 安心して～質の高い教育の場づくり」に位置づけ(企画室)
46	学校の防災拠点としての整備必要。(五十嵐委員)	目指す姿に「学校の施設や設備の充実」と記載。(企画室)

47	子どもたちの安全、安心の順番は先にすべき。(五十嵐委員)	一番前に子どもたちの安全・安心に関する項目を変更。(企画室)
(8) 学校と家庭・地域が協働して子どもを守り、育てる仕組みづくり		
48	社会に開かれた学校は、10年間でどのような方向に進めていくのかがあって良い。(浅沼委員)	目指す姿に『「社会に開かれた教育課程」を踏まえたカリキュラム・マネジメントの推進』と記載。(生文課)
49	学校支援地域本部は、支援から「連携」「協働」という視点への切り替えが必要。(佐々木良恵委員)	目指す姿に「教育振興運動を基盤とした地域学校協働活動等の充実」と記載。(生文課)
50	全般的に「だれが」「なにを」「どこで」するのか、よくわからない。(佐々木良恵委員)	表現を工夫しました。(生文課)
51	「いわて型コミュニティスクール」のさらなる推進があってもよいのではないか。(佐々木良恵委員)	目指す姿に「コミュニティスクール等の仕組みを活かした学校評価に基づく目標達成型の学校経営」と記載。(生文課)
52	中・高校生が週末や放課後に地域で過ごす仕組みが必要。(佐々木良恵委員)	目指す姿に「地域学校協働活動の充実」と記載(生文課)
53	「社会に開かれた教育課程」は欄外にその理念を記述していただけないか。(八重樫委員)	素案段階で脚注を記載予定。
54	「いわて型コミュニティスクール」「文科省型コミュニティスクール」「学校支援地域本部」の関係整理必要。(田代委員)	「いわて型CS」を内包した「文科省型CS」を「コミュニティ・スクール」と規定して記載。 地域が学校を支える「学校支援本部」から、教育振興運動を基盤とした、地域ぐるみで子どもを育む「地域学校協働活動」として記載。(生文課)
(9) 人生のステージごとに学び続けられる場づくり		
55	学校教育の中でも将来にわたって学ぶ姿勢を持ち続けるための取組がされるべき。(佐々木良恵委員)	目指す姿に「学校教育で培ってきた基礎・基本の力をもとに」と記載。(生文課)
56	「社会教育主事講習」以外の有効な取組はないか。(佐々木良恵委員)	取組に「各種指導者研修会の開催等」と記載し、「社会教育主事講習」以外の研修も充実。(生文課)
【その他】		
57	「・」は使わない方が良いのではないか。(和田委員)	素案段階で検討。(企画室)